新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょうか。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは? (Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会科学研究センターを開設し、毎年およそ50科目、延べ4000名の学生・院生みなさんにジェンダー、セクシュアリティに関わるさまざまな授業を提供しています。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門
<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指す ゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹 科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携 科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ

緩やかなスロープ

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいくカリキュラムがつけられています。

キャリアデザイン

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずです。

多様なセクシュアリティ

ジェンダーとセクシュアリティを切り離して考えることはできません。人間の性のあり方とその多様性を知ることは、自分自身の生き方を考え、周りの人の生き方を尊重するためにも不可欠です。

新しい社会科学

それぞれの専門的知見を深め研究を発展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。

性について、これほど学問的に深く考えたことはなかった。新しい思考法を身につけられた気がする。

大学の中にも「男は」「女は」という言説があふれている。たくさんの学生、特に男子学生に、受けてほしいと思った。

自分の中の偏見や先入観の存在に気づくことができた。ちまたにあふれる性に関する情報を批判的に見るできるようになった。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。
学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室
第2講義棟1階西側「いまここ」JHP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/>

■ハラスメント相談室 第1講義棟1階東側
<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/soudan.html>

■キャリア支援室
本館1階
http://www.hit-u.ac.jp/shushoku/career_support/top.html

セクシュアル・ハラスメントガイドライン
<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/guideline.htm>
相手の望まない性的な言動やジェンダー(性別)役割を押しつけることはセクシュアル・ハラスメントになります。一橋大学はその防止と排除のための措置、また問題が生じた場合の適切な措置のためのガイドラインを定めています。

ヒューマンセクソロジー

【共通／春夏・火2】

水野哲夫

男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性(Sexuality)の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感染症などの性の病理を学び直すとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。

ジェンダーと人権

【共通／秋冬・月3】

辻村みよ子・谷田川知恵

社会や法におけるジェンダー(性差)、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点(「ジェンダー人権論」)からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画(ジェンダー平等)の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・学術分野等の領域ごとに具体的に検討していきます。

ジェンダーから世界を読む

【共通／秋冬・木3】

町田みどり／オムニバス講義

さまざまな時代、地域、言語文化を専門とする講師陣が、「ジェンダー」という視点を共有して、「世界」のありようを多角的に読み解くリレー講義です。いろいろな言語文化のなかのジェンダーを読み解いていきます。

ジェンダーと社会

【社・基礎／春・火金3】

佐藤文香

ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマごとにジェンダー視点から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。

家族社会学

【社・発展／秋冬・水2】

木本喜美子

現代社会がかかえる問題をあきらかにするために、家族の歴史変動過程を重視し、その把握と解析方法をめぐって理論的立場を異にする見解に検討を加えていきます。ジェンダー・アプローチが焦点となります。

ジェンダー論

【社・発展※／秋・火金3】

佐藤文香

ケア・国家・軍隊・ポルノグラフィ・法など、ジェンダー関係の再編をめぐってフェミニズムの中に蓄積されてきたいくつかの争点を、理論的立場の相違として考察していきます。

ジェンダー特論

【社・発展※／秋冬・金2】

平井和子

現代日本社会が直面するさまざまな問題を、ジェンダー視点を基に、歴史的な文脈の中で考察することによって、解決へ向けた処方箋を描き出します。

クィア理論

【社・発展※／秋・月木2】

ソニヤ・デール

一般に性的マイノリティ全体を包括する用語として使われる「クィア」とは、実はさほど明確な概念であるとは言えません。この授業では、「クィア」をめぐる理論が私たちの日常生活にどのように関わっているのかを検討し、「クィアであること」「クィアとして生きること」の意味を考えます。なお、この授業は英語で開講されるHGP科目です。

ジェンダーとセクシュアリティの心理学

【社・発展／秋冬・水2】

柘植道子

ジェンダーとセクシュアリティにまつわる問題を心理学の視点からアプローチします。セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー・ステレオタイプ、ジェンダー役割負担、性役割態度、性差、ジェンダーとメンタルヘルス、心理学研究におけるジェンダーバイアスなどのトピックを扱います。

学部 連携科目群

全学共通教育科目

頻度	曜日・時限	講義名	担当者
◎	春夏・火4	古典講読入門(文学)A	井川ちとせ
◎	夏・月木3	英語圏地域文化論A	井上間従文
★	秋・月木2	古典講読入門(哲学・思想)A	中井亜佐子
◎	秋冬・金4	英語圏文学B	井川ちとせ
○	冬・月木4	フランス語圏地域文化論	森千香子
★	冬・月木2	教養ゼミナール(中井 亜佐子)A	中井亜佐子

学 部

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
★	社・導入	春夏・火4	社会研究入門ゼミナール(佐藤 文香)	佐藤文香
○	社・導入	夏・月木2	社会学概論	多田治
○	社・導入	夏・火金2	教育と社会	木村元
◎	社・導入	秋・火金3	社会科学概論Ⅱ	貴堂嘉之
◎	社・導入	冬・月木2	人類学概論	大杉高司
○	社・基礎	春・月木1	社会と文化B	洪郁如
○	社・基礎	春・月木2	社会人類学総論B	大杉高司
○	社・基礎	春・月木3	スポーツ社会学の基礎	駒・坂・野・鉢
○	社・基礎	春・火金2	教育の社会学A	山田哲也
○	社・基礎	春・火金3	アメリカ社会史総論A	貴堂嘉之
◎	社・基礎	夏・月木2	国際社会学ⅠA	伊藤るり
○	社・基礎	秋・月木2	政治思想	田中拓道
○	社・基礎	秋・火金1	Topics in Global StudiesⅠA	赤嶺淳
○	社・基礎	秋・火金2	教育の歴史A	太田美幸
○	社・基礎	秋・火金3	社会哲学B	大河内泰樹
★	商・発展	冬・火金3	消費文化論	河野真太郎
○	経・発展※	春・月水1	実験経済学	竹内幹
○	社・発展※	春・月木1	社会開発論A	上田元
○	社・発展※	春・月木2	社会福祉	白瀬由美香
◎	社・発展※	春・火金3	比較政治	田中拓道
○	社・発展※	春夏・月1	アメリカ社会史特論Z	丸山雄生
◎	社・発展※	冬・火金3	日本社会史特論Z	中村江里
○	社・発展	秋冬・金4	国際社会と文化A	小ヶ谷千穂
○	社・発展※	冬・火金1	アジア社会史特論A	加藤圭木

◆基幹科目◆

社会科学のなかのジェンダー

【春夏・金2】

貴堂嘉之・佐藤文香／オムニバス講義

既存の社会科学/人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させて、ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新たな可能性を切り拓くことを目的としたオムニバス形式の講義です。

社会学／平和とジェンダー

【秋冬・火4】

佐藤文香

フェミニスト国際関係論の洋書講読を通じて、平和に対するアプローチの独自性やその課題について議論していきます。

◆連携科目◆

頻度	研究科	曜日・時限	講義名	担当者
○	社	春夏・月2	地球社会と生命	菊池美名子
○	社	春夏・月4	社会学／グローバル化と移動社会	多田治
◎	言社	春夏・火2	英語圏文学A	中井亜佐子
◎	社	秋冬・火3	多文化社会の人間形成/教育の社会史	太田美幸
◎	社	秋冬・水2	トラウマと地球社会	宮地尚子
◎	社	秋冬・木2	国際社会学特論/エスニシティ論	伊藤るり

CGraSS公開レクチャー・シリーズ

ジェンダー研究の新しい方法を模索し、社会科学の手法との融合をいかにして果たすのか。社会学研究科内に設置されているジェンダー社会学研究センター(CGraSS)では、この課題にこたえるため、さまざまな研究領域の専門家のゲスト報告者を招いて、公開レクチャー・シリーズを展開しています。また、シンポジウムの共催や合同研究会などを行い、教員・院生の相互交流を奨励・推進しています。

【参考】2016年度のCGraSS公開レクチャー・シリーズ
 「大学・教育とセクシャルマイノリティ(LGBT)―大学にできる支援について考えよう」 2016年11月18日 講師:遠藤まめたさん・松岡宗嗣さん
 「現代ドイツにおけるフェミニズムと反フェミニズム運動」 2016年10月14日 講師:イルゼ・レンツさん(ルール・ポーフム大学名誉教授)
 「誘惑の舞台:夢を売る商売 一東京ホストクラブ」 2016年7月6日 講師:竹山明子さん(カンザス大学准教授)
 「錯綜する〈男らしさ〉のポリテクスプロ・フェミニスト運動の可能性と課題」 2016年6月17日 講師:多賀太さん(関西大学文学部教授)

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

★: 講義全体をジェンダーの視点から構成する

◎: ジェンダーを講義の一つの柱とする

○: ジェンダーについて1,2回取り上げる

※は学部・大学院共修。

委細は各授業のシラバスで確認してください。また履修登録の際には、学士課程ガイドブック(学部) / 学生便覧(大学院)に従って下さい。